

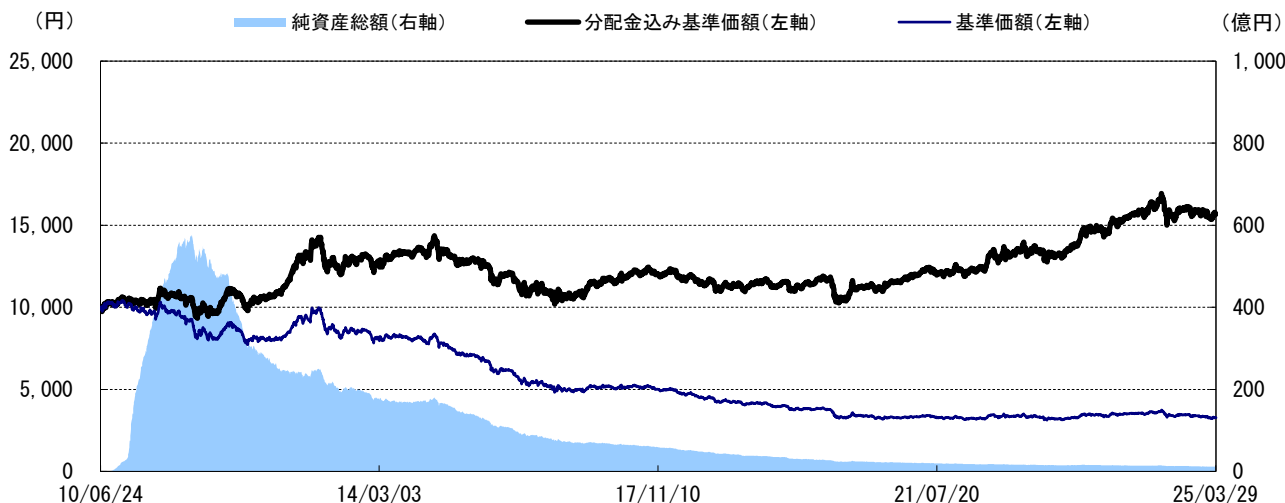
グリーン世銀債ファンド

設 定 日 : 2010年6月24日 償 還 日 : 2025年4月21日 決 算 日 : 原則毎月20日
 収 益 分 配 : 決算日毎 (第2期以降) 基 準 価 額 : 3,276円 純資産総額 : 11.48億円

※このレポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運 用 実 績

<基準価額の推移>



※分配金込み基準価額の推移は、分配金（税引前）を再投資したものを表示しています。

※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。

<基準価額騰落の要因分解>

前月末基準価額		3,257円	
当月お支払いした分配金		-20円	
要	ブラジルリアル	5円	
	メキシコペソ	3円	
	南アフリカランド	2円	
	ニュージーランドドル	4円	
	オーストラリアドル	3円	
	ノルウェークローネ	5円	
	アメリカドル	0円	
	イギリスポンド	5円	
	因	コロンビアペソ	0円
		ポーランドズロチ	6円
カナダドル		1円	
マレーシアリングット		0円	
インドネシアルピア		-1円	
人民元		0円	
債券・その他		6円	
当月末基準価額		3,276円	

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

<基準価額の騰落率>

1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
1.20%	-1.62%	-0.62%	-0.98%	18.90%	56.64%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

<資産構成比率>

WBグリーンファンド クラスA	98.4%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%
その他	1.5%

<分配金実績（税引前）>

設定来合計	直近12期計	24・4・22	24・5・20	24・6・20	24・7・22	24・8・20
9,260円	240円	20円	20円	20円	20円	20円
24・9・20	24・10・21	24・11・20	24・12・20	25・1・20	25・2・20	25・3・21
20円	20円	20円	20円	20円	20円	20円

※上記は過去のものであり、将来の収益分配を約束するものではありません。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

WB グリーンファンド クラス A のポートフォリオの内容

※日興アセットマネジメント ヨーロッパ
リミテッドより提供された情報です。

<通貨別構成比>

通貨名	比率	うちグリーンボンド
アメリカドル	19.1%	0.0%
メキシコペソ	12.8%	12.8%
ブラジルレアル	11.9%	11.9%
南アフリカランド	10.1%	0.0%
オーストラリアドル	9.8%	0.0%
ニュージーランドドル	6.4%	0.0%
インドルピー	6.4%	6.4%
ポーランドズロチ	5.8%	5.7%
イギリスポンド	5.7%	0.0%
ユーロ	5.5%	0.0%
日本円	3.8%	0.0%
カナダドル	1.7%	0.0%
ノルウェークローネ	1.0%	0.0%
人民元	0.0%	0.0%

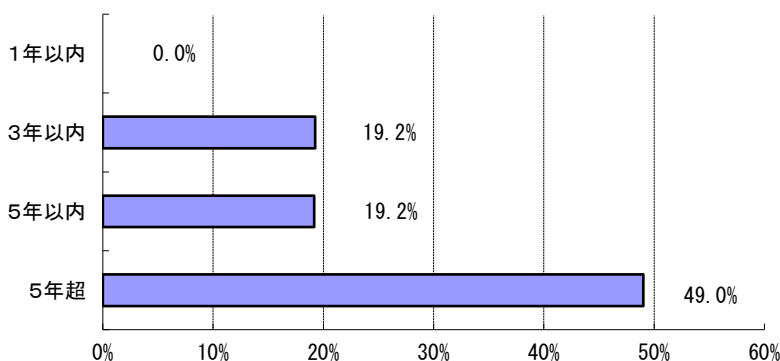
※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。

<格付別構成比>

Aaa	87.4%
Aa	0.0%
A	0.0%
Baa以下	0.0%
平均格付	Aaa

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
※格付はMoody's、S&Pのうち、高い格付を採用しています。
※平均格付とは、データ基準日時点で当外国投資信託が保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当外国投資信託に係る信用格付ではありません。

<残存別構成比>



※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
※変動利付債は次回利払い日までの日数で計算しています。

<公社債種別構成比>

世界銀行債券	87.4%
うちグリーンボンド	36.7%
ソブリン債他	0.0%

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
※ソブリン債は国債、政府機関債、政府保証債、国際機関債などです。（ただし、世界銀行債券を除く）

<ポートフォリオの特性値>

最終利回り	6.04%
直接利回り	3.61%
デュレーション	5.09年
組入債券の銘柄数	11銘柄

※利回りは、個別債券および短期金融資産について加重平均したものです。
※最終利回りは、債券および短期金融資産を満期まで保有した場合の利回りです。
※利回りは将来得られる期待利回りを示すものではありません。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に向ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運 用 コ メ ン ト

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

<北米・中南米>

【メキシコ】

メキシコペソは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が追い風となるなか、市場の動きに敏感な他の新興国通貨全般の動向と概ね同じような動きとなりました。メキシコはトランプ米大統領が示唆する相互関税リストで特に厳しい対象になるとされている国の一つであるにもかかわらず、メキシコペソは上昇しました。メキシコペソの取引の範囲が比較的狭かったことなどを考えると、メキシコペソの上昇は、投資家が昨年後半に経済に関連するリスクをすでに織り込んでいたことを示しているか、或いはトランプ米大統領が「解放の日」と呼ぶ4月2日を控えて市場が油断した状態であったことを示している可能性があります。国内では、メキシコの中央銀行が、3月の金融政策決定会合で市場予想通り政策金利を0.50%引き下げて9.00%としました。この動きはインフレの鈍化と経済成長見通しの弱まりを反映しており、これらはともに金融緩和継続の必要性を示しています。また、同中銀は、今後も利下げを継続するとの見通しを示しました。

【アメリカ】

アメリカドルは円に対して下落しました。上旬は、米国のISM製造業景況指数が市場予想を下回り米国景気の減速が警戒されたことや、米国がウクライナへの軍事支援をすべて停止する方針を示し地政学リスクの高まりが懸念されたこと、日本の2025年春季労使交渉（春闘）で要求する平均賃上げ率が高水準となり、日銀の追加利上げ観測が強まったことなどから、円に対して下落しました。中旬から下旬にかけては、米国のサービス業購買担当者景気指数（PMI）速報値などが市場予想を上回り米国景気の減速に対する過度な警戒感が後退したことや、米国政権による関税の引き上げが米国のインフレ再燃につながるとの見方などがアメリカドル買い要因となり、円に対して上昇しました。

【ブラジル】

ブラジルレアルは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が追い風となるなか、市場の動きに敏感な他の新興国通貨全般の動向と概ね同じような動きとなりました。ブラジルの中央銀行は、3月の金融政策決定会合で、政策金利を全会一致で1.00%引き上げ、2016年以来の高水準となる14.25%としました。今回の決定で3会合連続の1.00%の利上げとなり、同中銀が根強いインフレ圧力に対処していることが示されています。ブラジル地理統計院（IBGE）が発表した3月中旬までの1ヵ月間の総合消費者物価指数（CPI）の上昇率は、約2年ぶりの高水準となる前年同月比5.26%に達し、中央銀行の目標範囲である1.5～4.5%を上回りました。同中銀は声明において、経済が予想通りの進展をみせれば、次回の会合ではより小幅な利上げが適切になる可能性を示唆しました。しかし、インフレ期待を抑制し、CPIを目標の3%に導くために、しばらくの間利上げを継続する必要があるとも強調しました。

【コロンビア】

市場の動きに敏感な通貨に対する市場心理が比較的良好となったものの、コロンビアペソは対円で下落しました。主な要因は国内にあり、その内の一つとして3月に財務相が辞任したことが挙げられます。財務相は、財政赤字に対処するために同氏が提案した予算削減や財政政策措置の引き締めについて、大統領と合意に至らなかったことを受けて辞任しました。市場のネガティブな反応は、同国の財政政策の管理において課題が続いていることを浮き彫りにしています。

【カナダ】

カナダドルは円に対して上昇しました。日本の2025年春季労使交渉（春闘）で要求する平均賃上げ率が高水準となり、日銀の追加利上げ観測が強まったことなどが円高要因となったことや、カナダの中央銀行が政策金利を引き下げたことなどがカナダドルの重しとなったものの、カナダの消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回ったことなどがカナダドルの支援材料となり、カナダドルは円に対して上昇しました。

<アジア・オセアニア>

【オーストラリア】

オーストラリアドルは円に対して上昇しました。日本の2025年春季労使交渉（春闘）で要求する平均賃上げ率が高水準となり、日銀の追加利上げ観測が強まったことなどが円高要因となったものの、公表されたオーストラリア準備銀行（RBA）の金融政策決定会合の議事要旨で今後の利下げに慎重な姿勢が示されたことや、オーストラリアの製造業とサービス業の購買担当者景気指数（PMI）速報値が前月より上昇したことなどがオーストラリアドルの支援材料となり、オーストラリアドルは円に対して上昇しました。

【ニュージーランド】

ニュージーランドドルは円に対して上昇しました。日本の2025年春季労使交渉（春闘）で要求する平均賃上げ率が高水準となり、日銀の追加利上げ観測が強まったことなどが円高要因となったものの、ニュージーランドの製造業購買担当者景気指数（PMI）が上昇したことや、ニュージーランドのGDP成長率が市場予想を上回ったことなどがニュージーランドドルの支援材料となり、ニュージーランドドルは円に対して上昇しました。

【インドネシア】

インドネシアルピアは対円で概ね変わらずとなりました。市場では、2024年後半に選出された新大統領が、前大統領の政策を継続して取り組むのか否かについて、疑問視され始めました。また、社会福祉計画などへの支出が大幅に拡大することを受けて、懸念が強まりました。インドネシアの中央銀行は、3月の金融政策決定会合で政策金利を5.75%に据え置きました。しかし、国内のファンダメンタルズ（基礎的条件）の様子からは、さらなる金融緩和が必要な状況が続いています。市場では、2025年の残りの期間で複数回の追加利下げが実施されると予想されています。しかし、同中銀は、自国通貨ルピアの最近のボラティリティ（変動性）や2024年第3四半期末以降の下落傾向を受けて、当分のあいだは、急速な金融緩和よりも、自国通貨ルピアの安定を優先する可能性があり、慎重な姿勢を維持するとみられます。

【中国】

中国人民元は対円で上昇しました。これは、2025年序盤に、中国経済が勢いを取り戻したことが追い風となりました。当月発表された経済指標では、経済活動が活発化している兆候が示されました。国家統計局が発表した3月の製造業購買担当者景気指数（PMI）は、新規受注が工場の生産を押し上げたことから引き続き上昇し、昨年前半以来の水準に達しました。小売売上高や鉱工業生産も、消費支出の加速を目指す政府の措置に支えられて安定的な伸びとなりました。中国人民銀行は、3月に1年物と5年物の最優遇貸出金利（ローンプライムレート、LPR）をそれぞれ3.10%と3.60%に据え置き、2024年10月に実施した前回の利下げ以降据え置きを継続しています。追加の金融緩和が見込まれているものの、為替相場の安定が今後の利下げペースを制限する可能性もあります。

<欧州・中東>

【イギリス】

イギリスポンドは円に対して上昇しました。日本の2025年春季労使交渉（春闘）で要求する平均賃上げ率が高水準となり、日銀の追加利上げ観測が強まったことなどが円高要因となったものの、イングランド銀行（BOE）が政策金利を据え置き、今後の利下げに慎重な姿勢を示したことや、英国のサービス業購買担当者景気指数（PMI）速報値、小売売上高が市場予想を上回ったことなどがイギリスポンドの支援材料となり、イギリスポンドは円に対して上昇しました。

【ノルウェー】

ノルウェークローネは円に対して上昇しました。日本の2025年春季労使交渉（春闘）で要求する平均賃上げ率が高水準となり、日銀の追加利上げ観測が強まったことなどが円高要因となったものの、ノルウェーの中央銀行がインフレ加速を受けて利下げを先送りしノルウェーの長期金利が上昇したことなどがノルウェークローネの支援材料となり、ノルウェークローネは円に対して上昇しました。

【ポーランド】

ポーランドズロチは対円で上昇しました。ユーロとの相関が高いとされる他の新興国通貨全般の動向と概ね同じような動きとなりました。また、足もとで米ドルがユーロに対して下落していることが、欧州通貨全般の上昇を下支えしました。国内では、2月の総合消費者物価指数（CPI）の上昇率が前年同月比4.9%と、下方修正された前月からほぼ横ばいとなり、市場予想を大幅に下回りました。コアCPIの上昇率も前年同月比で市場予想を大きく下回りました。ポーランドの中央銀行は慎重な姿勢を維持し、3月の金融政策決定会合では政策金利を5.75%に据え置きました。しかし、インフレ動向が改善していることを受けて、同中銀は今後数ヵ月のあいだに徐々にタカ派（景気に対して強気）的な姿勢を後退させるとみられます。

<アフリカ>

【南アフリカ】

南アフリカランドは対円で概ね変わらずとなりました。国内では、2月の総合消費者物価指数（CPI）の上昇率が前年同月比3.2%と、前月から小幅に加速するとの市場予想に反して、前月からほぼ横ばいとなりました。2月のコアCPIの上昇率は前年同月比3.4%と、前月から減速するとともに市場予想を下回りました。こうした良好な動向があるにもかかわらず、南アフリカの中央銀行は、3月の金融政策決定会合で米国の外交政策に関連する不確実性をはじめとした複雑な外部環境を理由に、市場予想通り政策金利を7.50%に据え置きました。また、財政に関する議論が継続され、与党であるアフリカ民族会議（ANC）は修正した財政計画について連立政権のパートナーからの承認を求めており、付加価値税（VAT）の引き上げ案が議論の中心となりました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎運用概況

当ファンドは、新興国市場と先進国市場の通貨に分散させながら世界銀行債券に投資しています。当ファンドの基準価額（分配金考慮後）は、前月末比で上昇しました。多くの投資対象通貨が当ファンドの基準通貨である日本円に対して上昇しました。また、保有債券からの受取利息が当ファンドのリターンに寄与しました。

なお、当ファンドは2025年4月21日に満期償還いたします。受益者の皆様におかれましては、永らくご愛顧いただきありがとうございました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1 世界銀行が発行する債券に投資を行ないます。

- 世界銀行とは、貧困削減と持続的成長の実現に向け、新興国に対して融資や技術協力、政策助言などを提供する国際開発金融機関です。
- 原則として新興国における地球温暖化防止対策プロジェクトへの貸付にのみ利用されるグリーンボンドをはじめ、各国通貨建ての世界銀行債券（世銀債）を主な投資対象とします。（グリーンボンドの組入比率は、原則として30%以上をめざします。）
- 世銀債の中でも、相対的に利回りの高い通貨建ての債券を中心に厳選することで、信用リスクを抑えながら、より高い利子収入の獲得をめざします。

2 毎月の安定分配をめざします。

- 主に組入債券の利子収入や値上がり益などを原資として、毎月の決算時に安定した収益分配を行なうことをめざします。
 - 毎月20日（休業日の場合は翌営業日）を決算日とします。
- ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※市況動向や資金動向などにより、世界銀行債券の組入比率が一時的に大きく低下する場合があります。

●当ファンドは「ESG投信」です

- ・当ファンドは、原則として世界銀行が発行する債券でポートフォリオを構築しており、その運用方針においてESGを主要な要素としていることから、日興アセットマネジメントが「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて定めた「ESG投信」です。
- ・世界銀行は、発行する債券を通じて調達した資金で、貧困削減と持続的成長の実現に向け、主に新興国に対して融資や政策助言などを提供しております。

※詳細は、投資信託説明書（交付目論見書）をご参照ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／海外／債券
購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	※販売会社の照会先にお問い合わせください。
信託期間	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
決算日	2025年4月21日まで(2010年6月24日設定)
収益分配	毎月20日(休業日の場合は翌営業日)
	毎決算時に、分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行うことをめざします。
換金価額	※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
購入・換金申込不可日	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
	・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨーク証券取引所の休業日
	・ロンドンの銀行休業日 ・ニューヨークの銀行休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
	※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。
	※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。
	※当ファンドは、NISA の対象ではありません。
	※配当控除の適用はありません。
	※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

＜申込時、換金時にご負担いただく費用＞

購入時手数料 購入時の基準価額に対し3.3%(税抜3%)以内

※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

＜ご参考＞

(金額指定で購入する場合)

購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。

例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。

※上記の計算方法と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

(口数指定で購入する場合)

例えば、基準価額10,000円のときに、購入時手数料率3.3%(税込)で、100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。

購入金額＝(10,000円／1万口)×100万口＝100万円、購入時手数料＝購入金額(100万円)×3.3%(税込)＝33,000円となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万3,000円をお支払いいただくことになります。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 ありません。

＜信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用＞

運用管理費用 (信託報酬) 純資産総額に対し年率1.3%(税抜1.21%)程度が実質的な信託報酬となります。

信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率0.99%(税抜0.90%)、投資対象とするケイマン籍円建外国投資信託「WBグリーンファンド クラスA」の組入れに係る信託報酬率が年率0.31%程度となります。

その他の費用・手数料

受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。

目論見書などの作成・交付に係る費用および監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。
	日興アセットマネジメント株式会社
	〔ホームページ〕 www.nikkoam.com/
	〔コールセンター〕0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

流動性リスク

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

信用リスク

公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

為替変動リスク

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・新興国通貨建ての債券は、新興国の通貨の為替変動に影響を受けます。一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

カントリー・リスク

- ・投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

ESG投資に関するリスク

- ・ESG特性を重視して投資を行なうため、ファンドの基準価額の値動きは市場全体の値動きと異なる場合があります。その結果、ファンドの基準価額は大きく変動する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様に「グリーン世銀債ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は 日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
池田泉州ＴＴ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第370号	○			
株式会社ＳＢＩ証券 ※右の他に一般社団法人日本ＳＴＯ協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
株式会社ＳＢＩ新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社ＳＢＩ証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
おかやま信用金庫	登録金融機関	中国財務局長（登金）第19号	○			
株式会社香川銀行	登録金融機関	四国財務局長（登金）第7号	○			
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2938号	○			
株式会社群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第46号	○		○	
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第56号	○			
株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第11号	○		○	
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第10号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第3号	○			
十六ＴＴ証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第188号	○			
湘南信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第192号	○			
東海東京証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本ＳＴＯ協会にも加入	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○
株式会社トマト銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第11号	○			
西日本シティＴＴ証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長（金商）第75号	○			
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第41号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

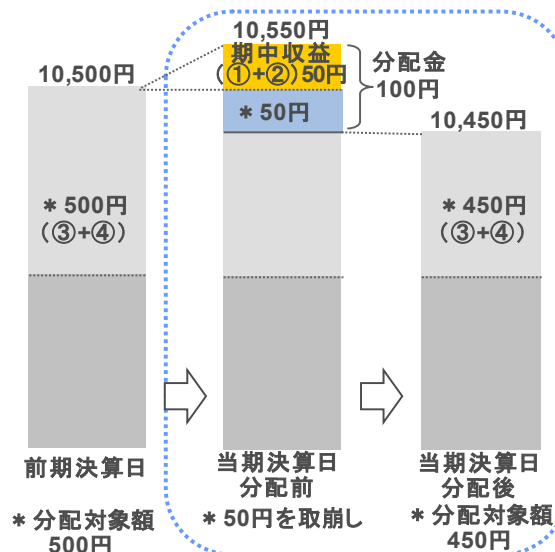
投資信託で分配金が支払われるイメージ



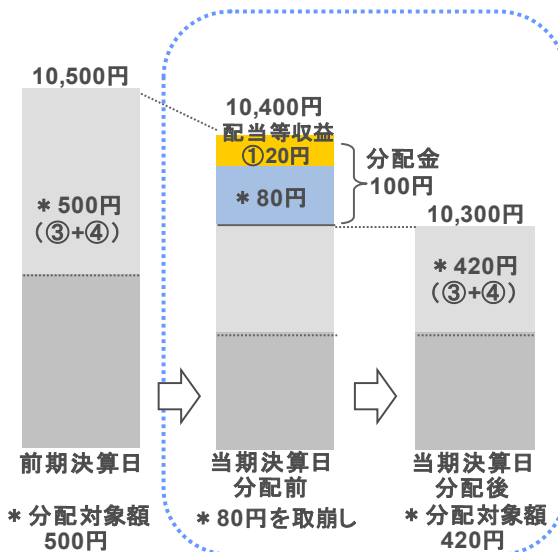
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



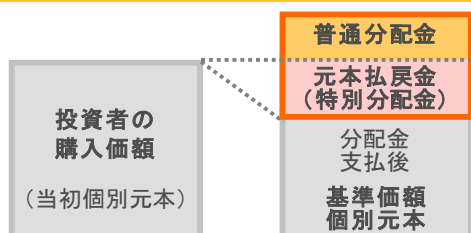
前期決算から基準価額が下落した場合



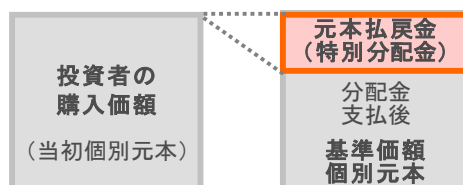
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。
また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金 (特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。